



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	乳がん、婦人科系がんの術後患者が抱える浮腫により経済的側面に関する社会心理学的な影響
Author(s)	工藤, 悦子
Citation	札幌保健科学雑誌, 第 1 号:11-16
Issue Date	2012 年
DOI	10.15114/sjhs.1.11
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/5380
Type	Journal Article
Additional Information	
File Information	n2186621X111.pdf

- ・コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等有します。
- ・利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- ・著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

原 著

乳がん、婦人科系がんの術後患者が抱えるリンパ浮腫により生じる 経済的側面に関する社会心理的な影響

工藤悦子、岩本喜久子

札幌医科大学寄附講座緩和医療学

本研究の目的は、乳がん、婦人科系がんの術後患者が抱えるリンパ浮腫により生じる経済的側面に関する社会心理的な影響を明らかにすることである。対象は、寄附講座緩和医療学主催のリンパ浮腫セミナーに参加している乳がん、婦人科系がんの術後患者31名である。フォーカスグループインタビューを行い、質的記述的分析を行った。

その結果、乳がん、婦人科系がんの術後患者が抱えるリンパ浮腫により生じる経済的側面に関する社会心理的な影響として、【リンパ浮腫の治療を継続していくことで抱える負担】、【リンパ浮腫に関する情報の曖昧さ】、【リンパ浮腫とともに生きることへの思い】、【がん治療、検査を継続していくことで抱える負担】の4つのカテゴリーが抽出された。患者は金銭的な負担とともに、情報が得にくいといった社会心理的な負担を抱えていた。個々の患者に合わせたリンパ浮腫に関する情報提供や患者自身がリンパ浮腫に関する情報へ容易にアクセスできるような環境整備が求められる。

キーワード：乳がん、婦人科系がん、リンパ浮腫、経済的負担

Exploratory study on psychosocial and financial impacts caused by lymphedema among breast and gynecological cancer patients

Etsuko KUDO, Kikuko IWAMOTO

Sapporo Medical University Department of Palliative Medicine

This study is to explore the economic and psycho-social impact of lymphedema among breast and gynecological cancer patients. The subjects of this study are 31 participants of monthly seminars hosted by the department of palliative medicine.

Data was gathered by conducting focus group interviews and qualitative analysis was performed.

The four categories emerged from our interview were 1) the burden of continuing treatment for lymphedema and its cost 2) the lack of clear information about lymphedema 3) the difficulty of lymphedema as a lifelong condition and 4) the financial burden of continuing cancer treatment and checkups. In addition to the financial burden, many individuals described the psycho-social burden caused by the lack of access to professional information and available resources. This study indicates the need to support those who suffer from lymphedema by establishing a system in society where they could easily access to variety of information regarding lymphedema, as well as get personal assistance by professionals when necessary.

Key words : Breast cancer, gynecological cancer, lymphedema, economic burden

Sapporo J. Health Sci. 1:11-16(2012)

．はじめに

リンパ浮腫は婦人科系がん、乳がんの術後に起こり、発症原因や治療方法は明確ではなく、一度発症すると完治は難しい。日本では推定年間10000人が慢性のリンパ浮腫症状を発症し¹⁾、海外でも1000人に1.33-1.44人の割合であるという²⁾。また、婦人科がん患者のうちリンパ浮腫を発症するのは5-40%で³⁾、その発症時期は術後早期から29年後である^{4) 5)}。時にその症状は副作用と誤って診断されることもある^{2) 4) 5)}。

河村ら⁶⁾は、リンパ浮腫が未解決の問題であるのは、根拠のある治療法が示されず、リンパ浮腫を治療対象とする医療者が少ない点を挙げている。また、患者へのリンパ浮腫の教育不足も指摘されている。これまで、リンパ浮腫を発症した患者たちの多くがリンパ浮腫の発症原因や予防、治療に関する情報を理解していなかった⁷⁾。Armed et al⁸⁾は、乳がん経験者の40%がリンパ浮腫について聞いたことがあり、52%がリンパ浮腫と診断されていても、治療を受けているのはたったの2%であったとしている。患者にはリンパ浮腫に関する知識が乏しく、むくみがあっても自分の原疾患とは関係ないと判断してしまう、あるいは、医療者側のリンパ浮腫に対する理解が少なく、適切な治療が行われない場合もあることが示唆された。

近年リンパ浮腫の治療に対するニーズは高まり、2008年から「リンパ浮腫指導管理料」が新設され、弾性着衣（圧迫のためのストッキング・スリーブ）が療養費の一部として支給対象となった⁹⁾。とはいえ、患者に提供されるマッサージなどには保険適用がない。濃沼¹⁰⁾は、患者の満足度を低下させる要因は診療の費用がトップであると指摘している。増島ら¹¹⁾や仲村ら¹²⁾は、マッサージや圧迫衣類が保険適用外であることが生活における困難を生じていると指摘している。このように経済的負担をリンパ浮腫に伴う問題として取りあげた研究はあるが、本研究では患者が体験している具体的な経済的負担に関する問題を探求することに焦点を当てた。

．研究目的

乳がん、婦人科系がんの術後患者が抱えるリンパ浮腫により生じる経済的側面に関する社会心理的な影響について明らかにすることである。

．研究方法

寄附講座緩和医療学（以下、当講座とする）は、年間通して定期的なリンパ浮腫セミナーを開催している。毎年4月に参加者の募集をし、専門的な知識提供や実技を交えて行われる。本研究では、このセミナー参加者31名を対象に、

2011年3月に12名、19名で構成したグループインタビューを実施した。インタビューは90分程度を目途とし、研究参加者のプライバシーが確保できる場所で行われ、研究参加者の了承を得てICレコーダーに録音した。内容は、年齢、病名、外来診療の頻度、仕事の有無と現在感じているリンパ浮腫により生じる経済的側面に関する事柄で自由な語りとした。

分析には、録音したインタビュー内容を使用した。録音内容から逐語録を作成し、逐語録を熟読した。参加者全員から、リンパ浮腫により生じる経済的負担に関する何らかの語りがあり、インタビューごとにリンパ浮腫により生じた経済的側面に関する社会心理的な影響を示す内容を文脈単位で抽出し、意味内容を損なわないようにコード化した。その後、全コードから類似する内容をまとめ、抽象化したカテゴリを作成した。分析に際し、複数の研究者間で検討を行った。

なお、本研究は札幌医科大学倫理委員会の倫理審査を受け実施した。研究協力に際し、研究の目的、方法、プライバシー保護、研究参加や撤回の自由、協力撤回により不利益が生じないこと、収集したデータは個人が特定されない形で関連学会等に発表することを口頭と文書にて説明した。面接への同意が得られたのちに文書で同意を得た。

．結 果

研究参加者は31名で、インタビュー時間は2グループとも90分であった。参加者の背景を表1に示す。平均年齢は57.1歳で、年代別では50歳代、60歳代が全体の80%を占めていた。疾患は、乳がんが最も多く、疾患の発症からの年数は5年以上が48.4%で、年数幅は1～18年であった。外来診療の頻度は、3か月ごとが42%と最も多かった。リンパ浮腫の診断を受けているまたはリンパ浮腫だと感じている者は51.6%で、発症から5年以上が43.7%であった。就業に関して、何らかの仕事をしているが19%、仕事はしていないが81%であった。

分析の結果、乳がん、婦人科がんの術後患者が抱えるリンパ浮腫により生じる経済的側面に関する社会心理的な影響として抽出されたカテゴリ、サブカテゴリおよび患者の語りを表2に示す。以下、カテゴリは【 】, サブカテゴリは[], 患者の語りは「 」で示した。

1. 【リンパ浮腫の治療を継続していくことで抱える負担】

このカテゴリは[スリーブ購入時に一旦全額自己負担することの抵抗感]、[スリーブは保険適応にはなっているが総額換算の費用の大きさ]、[スリーブの保険適応の申請にかかる時間の長さ]、[スリーブの保険適応の申請ができない状況になったときの対処への不安]、[保険適応外でスリーブ購入時の高額さ]、[マッサージにかかる費用の負担の大きさ]の6つのサブカテゴリで構成された。

【スリーブ購入時に一旦全額自己負担することの抵抗感】

では、「その場で払うのが6万弱で、一度払わなければいけないのは、割と苦痛ですね」と語られ、[スリーブは保険適応にはなっているが総額換算の費用の大きさ]では、「4足で7万だと30枚だから17万ぐらいかかっているわ」と語られた。また、「もっとスピーディーにやってもらいたい」と[スリーブの保険適応の申請にかかる時間の長さ]を負担に感じ、[スリーブの保険適応の申請ができない状況になったときの対処への不安]では、「年がいったことを考えるとね」と語られた。[保険適応外でスリーブ購入時の高額さ]では、「保険適応の2足が駄目になったら自腹で買うしかないけど、それは高くてもったいない」と語り、[マッサージにかかる費用の負担の大きさ]では、「マッサージはいいのだけお金がもったいない。1時間で7000円が自己負担だから」と語られた。

2. 【リンパ浮腫に関する情報の曖昧さ】

このカテゴリーは[リンパ浮腫について持っている知識の曖昧さ]、[リンパ浮腫についての詳細な説明の少なさ]、[リンパ浮腫の専門医への受診方法がわからない]、[リンパ浮腫そのものや治療にかかる費用に関する情報が得にくい]、[自分なりにリンパ浮腫に関する情報収集をする]の5つのサブカテゴリーで構成された。

「手術してリンパを取っていたら、重いものは持つてはいけないというだけの軽い知識だけで生活していましたね」と、患者が現在持っているリンパ浮腫の情報は少ない状況があった。また、「浮腫の心配があるのですが、と相談したけど、大丈夫じゃない？って、言われて」や「外来の先生のところに行ったらリンパ浮腫だと言われたけど、リンパ浮腫は知らないし、わからないんだよねって言われて」と、患者がリンパ浮腫に関して情報を求めても詳細な情報が得られにくい状況があった。

リンパ浮腫の専門医の受診では、「リンパ浮腫外来は診断書ないといけないのですか？」と、受診方法がわからず困惑している状況があった。さらに、リンパ浮腫の専門医を受診した際、「診察は保険がきくの？ マッサージは自由診療ですよ？」、「同じ病院でも違うストッキングを紹介していたり、メーカーによっても値段が違うみたいで」と、リンパ浮腫の治療や費用に関する情報は得られにくい状況であった。

一方、インターネットやリンパ浮腫セミナーの参加、リンパ浮腫の専門医の講習などを活用し、自分なりに情報収集を行っているという患者もいた。

3. 【リンパ浮腫とともに生きることへの思い】

これは、[リンパ浮腫は一生つきあっていくものだという現実のつらさ]、[慣れてくるとリンパ浮腫とうまくつきあえるようになる]の2つのサブカテゴリーで構成された。

「病棟で看護師さんにマッサージの仕方を習ったとき、絶対に自分ではできないと思ったような触り方で。なでているかのような。そんな触り方をして、この片足を持って歩かなければならないのかと思ったら、本当に。そして、

一生こうだというのもわかったし」と、リンパ浮腫と一生つきあっていく現実への思いが語られた。一方、「硬いストッキングも慣れてきますよ」、「これ（弾性ストッキング）履いて美しくなるよ、ぐらいいね」と自分なりにリンパ浮腫とのつきあい方を見出している様子が語られた。

4. 【がん治療、検査を継続していくことで抱える負担】

これは、[リンパ浮腫以外にもがんの治療や検査にかかる費用の大きさ]、[継続的にがん治療に費用がかかることでの将来への不安]の2つのサブカテゴリーで構成された。

「1か月に注射と薬で2万くらいかかる。それが毎月ってなるとやっぱりちょっと」と、がん治療や検査を継続することでの実質的な経済的負担を語っていた。また、「自分の命に関わることだからやらないわけにはいかないし、自分が病気になってこんなにお金使ってどうなのかなって。息子は今後受験とかもあるし。例えば何か症状が出て、また薬とかプラスになってくるとどうしようかなって」と、がんとともに生きていくためにかかる費用への不安が語られた。

考 察

乳がん、婦人科系がんの患者がリンパ浮腫により体験する困難として経済的負担があることは明らかになっている^{11) 13)}。本研究でも、【リンパ浮腫の治療を継続していくことで抱える負担】の[スリーブは保険適応にはなっているが総額換算の費用の大きさ]、[保険適応外でスリーブ購入時の高額さ]、[マッサージにかかる費用の負担の大きさ]という実質的な経済負担は、先行研究と同様の結果だと言える。しかし、[スリーブ購入時に一旦全額自己負担することの抵抗感]、[スリーブの保険適応の申請にかかる時間の長さ]、[スリーブの保険適応の申請ができない状況になったときの対処への不安]という、保険適応になるとは言い一旦全額自己負担することの負担の大きさ、保険適応分を払い戻す手続きを自分でしなければならない負担感ということが明らかになった。このような負担感は、通院治療している患者が日常的に医療者に語ることは少なく、実質的な経済負担をさらに助長させる要因になるのではないかと考える。

【リンパ浮腫に関する情報の曖昧さ】では、リンパ浮腫とは何かということや、患者がリンパ浮腫の情報を求めても、医療者からリンパ浮腫に関する専門的知識を得ることが難しいことが明らかとなった。このようにリンパ浮腫に関する情報が曖昧な状況では、リンパ浮腫自体のことがわからず、治療にかかる具体的な経済的負担に関する情報を患者側が主体的に求めることは難しいのではないかと考える。もし、入院・通院中にリンパ浮腫の情報を聞いても、主にながんの治療が行われている間はそちらが優先され、リンパ浮腫は後回しになってしまうのではないかと推察する。また、リンパ浮腫の発現時期が様々であることを考えると、

リンパ浮腫の専門医の存在や受診方法、治療にかかる経済的負担も含めた具体的なリンパ浮腫に関する情報提供はされにくいのではないかと考える。リンパ浮腫は一度発症すると、[リンパ浮腫は一生つきあっていくものだという現実のつらさ]を感じる。[慣れてくるとリンパ浮腫とうまくつきあえるようになる]というように、患者なりにリンパ浮腫とのつきあい方を模索しているが、[自分なりにリンパ浮腫に関する情報収集をする]というように、リンパ浮腫の管理は、患者自身に委ねられることが多い。これから、医療者は患者がリンパ浮腫に関する情報を求めたとき、どこで誰からどのような情報が得られるのかといった、具体的な情報収集の方法を含めた情報提供が望まれる。

患者は、リンパ浮腫の負担とともに、再発後の治療の苦しみ¹⁴⁾や[リンパ浮腫以外にもがんの治療や検査にかかる費用の大きさ]、[継続的にがん治療に費用がかかることでの将来の不安]を抱えながら生活している。濃沼¹⁰⁾が「患者が制度を変える時代」になっていると語るように、現状のリンパ浮腫治療を取り囲む制度は医療システムから離れた時点で起こることが多く、なかなか医療者の耳に日常の患者の苦悩として届くことは難しい。医療者は彼らのリン

パ浮腫により生じる経済的負担には、リンパ浮腫やリンパ浮腫以外のがん治療や検査費用という実質的な経済的負担とともに、精神的な負担感を併せ持ったものであることを理解する必要がある。

今後は、個々の患者のがんの病状、リンパ浮腫の発症の有無や程度に合わせたリンパ浮腫に関する情報提供や、患者自身がリンパ浮腫に関する情報へ容易にアクセスできるような環境整備が求められると考える。

・ 研究の限界と今後の課題

本研究は、通年実施のリンパ浮腫セミナー参加者が対象であり、リンパ浮腫に対する意識は高いと推測される。今後は、このようなセミナーに所属していない者を対象とし、患者の個別性を考慮した支援のあり方を検討したい。

謝 辞

本研究の調査協力していただいた研究参加者の皆様に心より感謝致します。

表1 研究参加者の背景

		N=31	
項目		n	%
年齢	30歳代	1	3.2
	40歳代	5	16.1
	50歳代	11	35.5
	60歳代	14	45.2
病名	乳がん	23	74.2
	子宮がん	1	3.2
	子宮体がん	5	16.1
	卵巣がん	2	6.5
疾患を発症してからの年数	0～1年未満	0	0.0
	1～2年未満	4	12.9
	2～3年未満	8	25.8
	3～4年未満	1	3.2
	4～5年未満	3	9.7
	5年以上	15	48.4
外来診療の頻度	1か月毎	4	12.9
	2か月毎	3	9.7
	3か月毎	13	41.9
	4か月毎	3	9.7
	5か月毎	0	0.0
	6か月毎	5	16.1
	1年毎	2	6.5
	2年毎	1	3.2
リンパ浮腫と診断されたまたはリンパ浮腫だと感じてからの期間 N=16	0～1年未満	1	6.3
	1～2年未満	2	12.5
	2～3年未満	5	31.3
	3～4年未満	1	6.3
	4～5年未満	0	0.0
	5年以上	7	43.8
仕事の有無	あり	6	19.4
	なし	25	80.6
仕事がある者の職種	会社員	4	66.7
	公務員	1	16.7
	その他	1	16.7

表2 乳がん、婦人科系がんの術後患者が抱えるリンパ浮腫により生じる経済的側面に関する社会心理的な影響

【カテゴリー】	【サブカテゴリー】	「患者の語り」
【リンパ浮腫の治療を継続していくことで抱える負担】	【スリーブ購入時に一旦全額自己負担することの抵抗感】	「その場で払うのが6万弱で、一度払わなければいけないのは、割と苦痛ですね」
	【スリーブは保険適応にはなっているが総額換算の費用の大きさ】	「4足で7万だと30枚だから17万ぐらいかかっているわ」
	【スリーブの保険適応の申請にかかる時間の長さ】	「もっとスピーディーにやってもらいたい」
	【スリーブの保険適応の申請ができない状況になったときの対処への不安】	「年がいったことを考えるとね」
	【保険適応外でスリーブ購入時の高額さ】	「保険適応の2足が駄目になったら自腹で買うしかないけど、それは高くてもったいない」
	【マッサージにかかる費用の負担の大きさ】	「マッサージはいいのだけどお金がもったいない。1時間で7000円が自己負担だから」
【リンパ浮腫に関する情報の曖昧さ】	【リンパ浮腫について持っている知識の曖昧さ】	「手術してリンパを取っていたら、重いものは持つてはいけないというだけの軽い知識だけで生活していましたね」
	【リンパ浮腫についての詳細な説明の少なさ】	「浮腫の心配があるのですが、と相談したけど、大丈夫じゃない？って、言われて」 「外来の先生のところに行ったらリンパ浮腫だと言われたけど、リンパ浮腫は知らないし、わからないんだよねって言われて」
	【リンパ浮腫の専門医への受診方法がわからない】	「リンパ浮腫外来は診断書ないといけないのですか？」
	【リンパ浮腫そのものや治療にかかる費用に関する情報が得にくい】	「診察は保険がきくの？マッサージは自由診療ですよ？」 「同じ病院でも違うストッキングを紹介していたり、メーカーによっても値段が違うみたいで」
	【自分なりにリンパ浮腫に関する情報収集をする】	「退院してから人伝えに自分で病院を探し、その病院で治療にかかる費用など調べました」
【リンパ浮腫とともに生きることへの思い】	【リンパ浮腫は一生つきあっていくものだという現実のつらさ】	「病棟で看護師さんにマッサージの仕方を習ったとき、絶対に自分ではできないと思ったような触り方で。なでているかのような。そんな触り方をして、この片足を持って歩かなければならないのかと思ったら、本当に。そして、一生こうだというのわかったし」
	【慣れてくるとリンパ浮腫とうまくつきあえるようになる】	「硬いストッキングも慣れてきますよ」「これ（弾性ストッキング）履いて美しくなるよ、ぐらいいね」
【がん治療、検査を継続していくことで抱える負担】	【リンパ浮腫以外にもがんの治療や検査にかかる費用の大きさ】	「1か月に注射と薬で2万くらいかかる。それが毎月ってなるとやっぱりちょっと」
	【継続的にがん治療に費用がかかることでの将来への不安】	「自分の命に関わることだからやらないわけにはいかないし、自分が病気になるってこんなにお金使ってどうなのかなって。息子は今後受験とかもあるし。例えば何か症状が出て、また薬とかプラスになってくるとどうしようかなって」

文 献

- 1) 二渡玉江, 樋口友紀, 中西陽子他: がん手術治療に伴うリンパ浮腫ケアの現状に関する全国調査. 北関東 Med J59 : 33-42, 2009
- 2) Rockson, SG & Rivera KK. : Estimating the population burden of lymphedema. Annals of the NY Academy of Science1131:147-154, 2008
- 3) 西田恭子, 川本かおり, 保宗幸子: 術後早期からのリンパ浮腫予防の効果: 婦人科がん患者へのセルフマッサージ効果を通して. 看護学雑誌69 (11) : 1126-1130, 2005
- 4) 高橋美幸, 中山崇, 久連山智子: 当院における乳がん術後のリンパ浮腫ドレナージの取り組み. 医療の広場 50 (9) : 39-42, 2010
- 5) Park JH., Lee WH., Chung HS. : Incidence and risk factors of breast cancer lymphedema. Journal of Clinical Nursing17 (11) : 1450-1459, 2008
- 6) 河村進, 横山隆, 谷水正人他: リンパ浮腫診療の地域連携とその必要性. 治療増刊号90 : 793-799, 2008
- 7) Greenslade MV & House CJ : Living with lymphedema: a qualitative study of women's perspectives on prevention and management following breast cancer-related treatment. Canadian Oncology Nursing Journal16 (3) : 165-179, 2006

- 8) Armed RL., Prizment A., Lazovich D., et al : Lymphedema and quality of life in breast cancer survivors: the IOWA women's health study. Journal of Clinical Oncology 26 (35) : 5689-5696, 2008
- 9) 診療点数早見表2008年4月版. 東京, 医学通信社, 2008, 145
- 10) 濃沼信夫 : がん治療を巡る医療経済学. 治療87 (4) : 1625-1633, 2005
- 11) 増島麻里子, 佐藤禮子 : 乳がん治療後のリンパ浮腫が患者にもたらす苦悩. 千葉看護学会誌13 (1) : 85-93, 2007
- 12) 仲村周子, 神里みどり : リンパ浮腫を伴った乳がん患者の日常生活困難感とその対処法および自己との折り合い. 沖縄県立看護大学紀要11 : 1-3, 2010
- 13) 小林理恵, 渡邊岸子 : リンパ浮腫のセルフケアの実態と継続困難に関する検討. 新潟大学医学部保健学科紀要9 (2) : 133-139, 2009
- 14) 阿部恭子 : 乳がん患者のセルフケアを促す退院指導のポイント. Nursing Today 3 : 138-141, 2010